

時間生物学国際サマースクール2016に参加して

織田善晃[✉]

北海道大学 時間医学研究グループ

2016年8月1日から6日にかけて北京大学で開催された時間生物学サマースクールに参加してきました。2014年に北海道大学で開催された時は裏方としてお手伝いさせて頂きながら参加しておりましたが、当時は時間生物学分野に参加して間もない頃で右も左も分からず過ごしてしまいました。そこで今回は受講生として参加致しましたので、その体験記を書かせて頂きます。

会場となった北京大学は皆様ご存知の通り、首都・北京市にある中国最高峰の大学です。北京へは日本各地から直行便があり、比較的便利なところです。北京空港から地下鉄やタクシーを使い、1時間弱で北京大学へ行けます。到着してまず、北京市内のありとあらゆるものの巨大さに驚きました。私が見た主な幹線道路はだいたい両側合わせて8車線あり、朝晩の通勤時間になるとそこが車と原付で埋め尽くされていました。滞在中に気付いたのですがこれらの原付は全て電動になっていて、エンジンが付いていませんでした。現地の方に聞いたところ、環境保護のために原付は全て電動になっているとのことでした。

大学キャンパスも非常に広く、その中に巨大なビルが所狭しと何棟も建っていました。また日本国内では見たことのないような巨大な図書館や清王朝時代の庭園、さらには昔の先生方の住居跡等があり、見るもの全てに驚きました。

敷地内にはゲストハウス（一般旅行者も宿泊できるホテル）と住居が集まっているエリアがあり、宿泊が必要な講師の先生方と受講生は全員そこに泊まりました。二人でルームシェアする形で用意されており、私はフランスから来た博士課程の学生と同室でした。なお滞在中の宿泊費と食費は全て参加費に含まれていたため、基本的に現金を使う必要はありませんでした。

今回の受講生は40名ほどで、その大半は現地北京大学と中国内の大学から来た学部生・大学院生でした。国外からの参加者は米国1、フランス1、韓国1、そして日本から私を含めて3名と少数でした。そのため会期中に受講生間で飛び交う言葉は主に中国語だったので、慣れない英語を絞り出してなんとか彼らとコミュニケーションを図りました。

1日のスケジュールは3部に構成されていました。まず午前中は8時半に講義室にあつまり、各インストラクターによる講義を受けました。受講生の大半が修士以下の若手学生が中心だったためか、最も重要な「基礎」を徹底的に講義して頂きました。研究対象を大きくヒト、哺乳類（齧歯類）、昆虫（ショウジョウバエ）、植物、シアノバクテリアに分け、対象ごとの歴史から最新研究に至るまでの総説をレクチャーして頂きました。

昼食後、今度は3班に分かれたワークショップが行われました。そのうち1テーマでは視交叉上核スライスの作製と発光測定について学び、私は経験者として視交叉上核スライス作製のデモンストレーションを行いました。残りの2テーマではグループディスカッションを行いました。会期全体を通して実技がこのスライス作製のみだったのが心残りな点でした。全6日間という長い期間だったことありますが、座学ばかりというのはかなり疲れてしまいます。今回は実験機材を開催地に集めることができなかったという事情があったそうですが、できる限り手を動かす企画も入れて頂けると気分転換もでき、よりいっそう各セッションに集中できるかと思われました。

ワークショップ後に夕食を頂き、その後全員が今度は小部屋に集まりディスカッションの時間が設けられました。全行程の中で、これが最も重要でかつ充実した時間だったと思います。まず講師の方が短

✉oda.yoshiaki@med.hokudai.ac.jp

く講義をした後にテーマを出し、それについて議論しました。これまで経験してきたディスカッションと大きく異なるのは、受講生だけでなくその中に講師の先生方全員も混ざって議論したという点です。つまりある日はあのSamer Hatterが私の隣に座り一緒に中枢時計の定義について話合い、また別の日には隣であるCarl Johnsonが腹を抱えて引き笑いをしていたのです。彼ら意外の講師陣も皆フレンドリーで、こちらの発言をじっくりと聞いて下さったため非常に話しやすい空間になっており、今まであやふやだった理解を深める最高の時間でした。ディスカッションは夜の9時頃まで行われましたが、おそらくこの時間に一番テンションが上がっていたと思います。

期間中、受講生の研究発表の場としてポスターセッションが設けられました。前回サマースクールの反省点として挙がっていた意見が反映された形ですが、これは有意義だったと思います。他の研究グループの状況や、受講生同士の親交を深めるいい機会になりました。今後のサマースクールでもぜひ続けて頂きたい点です。

期間中さらに、睡眠障害専門の病院へのツアーがありました。新設されたばかりの大病院で実際の患

者さんはほとんどいませんでしたが、その分かなり内部まで見させていただきました。患者さんの睡眠を正確にモニターするため各種センサーを備えた個室が何部屋もあり、そのデータが別室でモニターできるようになっていました。一般患者用の部屋以外に「VIP」用の個室とさらにその上をいく「VVIP」用の個室も見せていただきましたが、これらに関しては開いた口が塞がらない、としか言えません。少なくとも私は庭付きの病室など聞いたことが無いのですが、皆様はいかがでしょうか。

以上長々と書かせて頂きましたが、今回のサマースクールの最大の特徴は、講師陣と受講生とが一緒に過ごす時間が非常に長かった点にあったと思います。上記には書きませんでした。何回か懇親会があり、また夜のディスカッションが終わった後も数名の先生方と飲みに行ったりと、とにかく朝から晩まで先生方と過ごし、言葉を交わす機会をたくさん得ることができました。今回、海外での開催ということで参加を見合わせた方がもしいらしたら、次の機会にぜひ参加されることをお勧めします。これまで論文の筆者欄でしかお目にかかれなかった著名な先生方と直接お会いし、勉強する最高のチャンスです。



病院ツアー後の懇親会にて



スライス作製デモ中. 左の方にいるシャツがキツそうなのが筆者